

井田川の特徴

井田川は神通川の支流にあたり、富山大橋手前で神通川と合流します。流域面積407km²、総延長48kmと、県内の支流では大きな川です。旧八尾町の山間部（大長谷川、室牧川と名前を変える）では上流の特徴が観察でき、富山平野ではおもに中流の特徴が観察できます。総合教育センターそばでは、川原はほとんどなく、下流の特徴を示します。河川改修により、立派な堤防ができており、自然の姿はあまり残っていませんが、それでも、余川橋下流の左岸側には川原に降りやすい場所もあり、「流れる水のはたらき」に必要な観察・実験はひとつとおりできます。

上流（柚ノ木付近）



中流（余川橋－高田橋付近右岸側より）



中流（万代橋付近）



下流（総合教育センター付近）

